

バランス能力が高い人の特徴を見つけよう

単元	資料の活用	対象学年	1年
ねらい	データの分析を実データから行うことで、資料の活用の学習意欲を高める。 身の回りのことを分析することで、批判的思考力を養う。		

1 準備するもの

教師：タイマー1個（データを取る際に使用）

付箋人数分（データ記入用）、

黒板に掲示するグラフ用紙1枚（付箋を貼り、柱状グラフをつくる）

データをヒストグラム・度数分布表にまとめた用紙（人数分）

2 学習のしかた（8時間完了）

（1）「学習意欲をもち、データを取る」（1／8）

生徒がもっているバランス能力が高い人のイメージを、実際にやってみることで確かめてみようとして投げかけ、単元を貫く課題として設定する。比較ができるように、「運動部と文化部男子と女子では」と比較対象を設定する。

（2）「集めたデータの資料から分析を行う」（2／8）

閉眼片足立ちを行う。事前に決めた比較対象のどちらのバランス能力が高いのか分析を行う。単元開始時であるので、分析は上手く行えないことが予想される。上手くいかない原因を見つけ、今後の学習意欲の維持につなげる。

（3）「資料の活用の仕方を学ぶ」（3／8～6／8）

2時間目に生徒が分析で用いたヒストグラムや度数分布表、代表値の扱い方を、既習の知識や分析方法との違いを比較しながら学習を行う。

（4）「再度分析を行い、結果を考察する」（7／8～8／8）

単元の終末として、もう一度分析を行う。3時間目～6時間目で、単元導入時の分析はできているので、別の比較対象から、グループごとに分析を行う。また、できた分析を全体で比較することや他の分析を見ることで、自分たちの分析を客観的、批判的に考察する能力を養う。

3 学習上の留意点

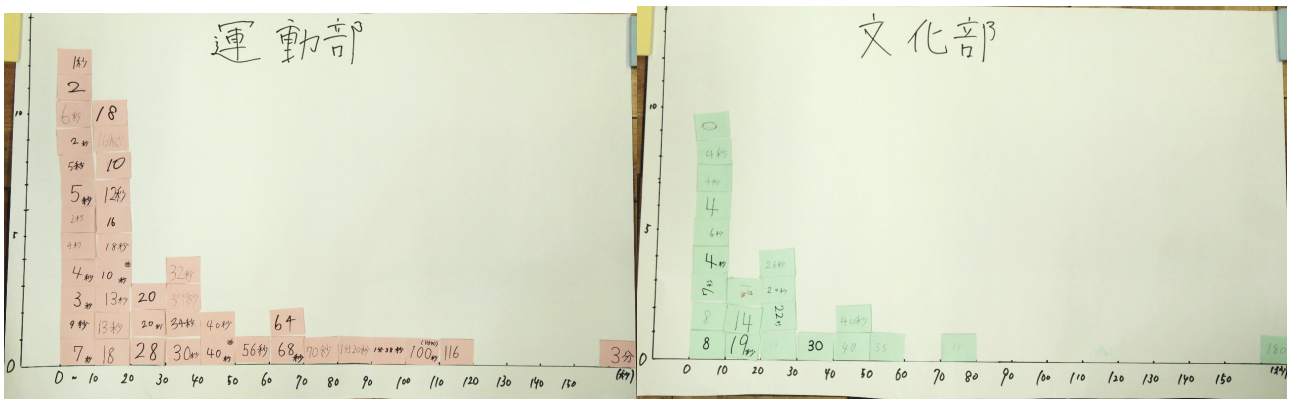
- ・できる限り、生徒の予想と結果がことなるテーマ設定をする必要がある。
- ・データがあまりに偏った場合は、単元開始時のデータの分析を行う際、他クラスのデータも追加し、データを分散させる。

4 学習の効果

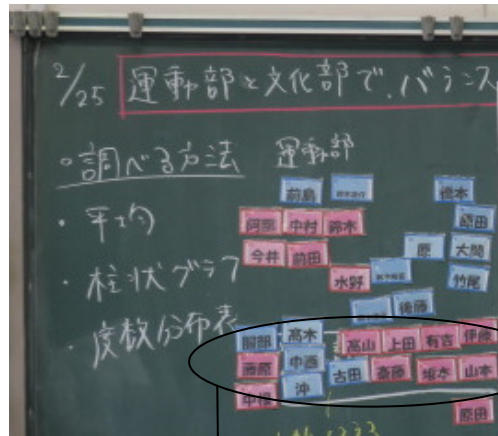
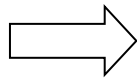
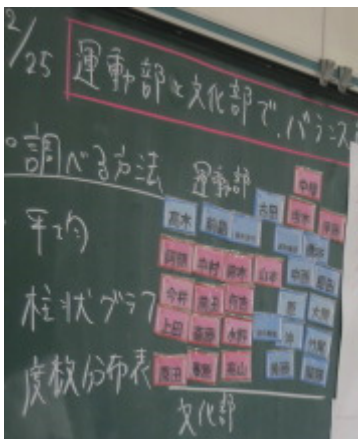
- ・実データを用いることで、単元学習の意欲を高めることができる。
- ・日常で思っていることが、数字を用いたデータから分析を行うことで覆ることがあるという体験から、自らを客観的に見ること、批判的にデータを考察する能力を育むことができる。
- ・資料を活用する際に、状況に応じて式（代表値）・表（度数分布表）・グラフ（柱状グラフ）のそれぞれの利点ができることに気付かせることができる。

5 参考資料

(1) 付箋を用いて作成した柱状グラフ



(2) 意見の変容



どちらでもないと思った生徒

【分析する前は全員が運動部だと思っていたが、分析後、意見が変わった】
 (分析後は「どちらでもない」を追加した。どちらでもないが14人、文化部が1人)